

日 時	令和3年2月5日（金）		
学年・組	第2学年A組（男子11名 女子11名 計22名）		
単元名	根拠を明確にして意見を書こう		
教科における見方・考え方	言葉による見方・考え方を働かせるとは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。		
単元で育成する力	2年生B書くこと ア 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。 イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。		
単元に係る生徒の状況と指導	本学年の生徒は、これまでに「根拠を明確にして書こう」「根拠を明確にして魅力を伝えよう」という単元で興味を持った課題について調査したり、観点に基づいて作品を鑑賞したりして、根拠を明確にして自分の考えや気持ちを書く学習をしてきた。しかし、自分の意見を支える根拠として、社会生活の中から課題を決めて、適切に情報を収集し、取捨選択する力は十分ではない。また、読み手の立場に立って、自分の書いた文章の表現の効果などを確かめて、文章を整える力が不十分である。そこで、本単元では、書籍やインターネットを活用して情報を収集したり取捨選択したりする活動を小グループで行い、互いに書き手や読み手となって批評し合う時間を設けることで、書く力の向上を図る。		
単元の観点別評価規準	国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
	① 課題に対する意見を、より明確にしたり深めたりするために、根拠となる情報を積極的に収集している。	② 環境問題について興味をもった事柄などから課題を選び、情報を集めている。 ③ 意見を支える根拠を具体的に示したり、反論を予想してそれに対する考えを示したりしながら意見文にまとめている。 ④ 「意見文の推敲の観点例」を参考にして文章を吟味している。	⑤ 意見文という文章形態の特徴を捉え、説得力のある文章とはどのようなものかについて理解している。 ⑥ 主語・述語の関係、接続詞の使い方、副詞の呼応などに注意して文章を書いている。

探究活動に係る、単元を貫く指導と評価（全6時間）

探究過程	回数	生徒の活動（時間）	生徒の思考	教師の支援等	評価規準【方法】	コ	主	ア
課題設定	1	・意見文の説得力を考える。 ・環境問題の中から課題を見つけ、自分の意見を導き出す。（1）	・意見文は意見・根拠に加えて反論を書くことが必要だと分かった。 ・様々な環境問題の中から、自分が意見を明確にできるテーマを決めよう。	・ワークシートに、意見を支える客観的根拠の例を示しておく。	国語への 関心・意欲・態度 【活動の様子】 【ワークシート】			
情報収集	2	・意見を導き出す基になった情報を中心に、根拠となる情報を収集する。（1） ・自分の意見や根拠に対する反論を想定して自分の意見を明確にする。（1）	・自分の意見を支える根拠を、本やインターネットから考えよう。 ・自分の意見に対する反論を考えてみることで、意見文の説得力が増すことが分かった。	・図書室の本を中心に資料を用意しておき、生徒が信頼性のある根拠に触れられるようにする。 ・小グループで活動させる。 ・書くための材料を本やインターネットなどで準備させる。	書く能力 【活動の様子】 【ワークシート】			
整理分析	3	・構成メモを作り、意見文の下書きをし、相互評価をする。【本時4/6】	・構成メモを使いながら双括型で書くことと意見がはっきりすると分かった。	・どうかげばよいか分からない生徒への手だてとして構成例を示す。	書く能力 【作文】【相互評価】	○		
まとめ創造	4	・下書きを推敲し、分かりやすく説得力のある意見文を書く。（1）	・互いに読み手となって評価し合うことで、読み手を意識して書くことの大切さを感じた。	・観点を決めて相互評価させ、文章の正しさや根拠の質を考えさせる。	言語についての 知識・理解・技能 【活動の様子】 【作文】			
表現実行振り返り	5	・相互評価をする。（1）	・もっといろいろな課題について考えてみたい。	・振り返りの中で学習のキーワードを交流させる。	書く能力 【活動の様子】 【振り返り】			

本時の授業展開（4/6時間目）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準【評価方法】
1 ぐんぐん time（復習） ①文法の復習をする。	・言語に対する感覚を磨く時間にする。	
2 つかむ 見通す ②本時の目標を確認する。 ★【予習内容】 予習で、意見文をレベルアップする鍵を考えてくる。		
<b>本時の目標（本時の課題）「意見文をレベルアップする鍵を見つけよう。」</b>		
3 課題解決 ③相互評価の方法を理解する。	・相互評価の観点を「プラス（説得力がある）」「マイナス（説得力を持たせるためにこうしてはどうか）」「表記（文字や文法の正しさ）」とする。	
④3種類の付箋を使って相互評価をする。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;">                     次の点について、意識させる。                      ・文末を統一させること                      ・主語と述語のねじれをなくすこと                      ・双括型の意見文となること                      ・根拠は意見を支えるものになっているかどうか                 </div>	
⑤他者の評価を小グループで確認して、吟味する。	・他者からの評価をそのまま推敲に反映するのではなく、疑問に思った点は質問したり、第三者の意見を求めたりして、最終的には自分がその決定をするように促す。  ・相互評価に基づいて根拠の見直しや情報確認をさせる。	「意見文の推敲の観点例」を参考にして文章を吟味している。 【作文】【相互評価】
4 振り返り ⑥他者からの評価や友達への評価を通して学んだことをまとめる。	・ノートに記入させる。	
（期待されるまとめ） ・意見文をレベルアップする鍵は①正しく書くこと ②双括型で書くこと ③根拠と意見のつながりがあることの三つだと分かった。		
⑦振り返る。	（期待される振り返り） ・自分の意見文は、二つ目の根拠があいまいだったので、推敲にいかしたい。	
⑧次回の授業内容を確認する。 ★★【予習内容】教科書の例文を読む。	・次時は、推敲をいかして清書を完成させることを知らせる。	